

鼓阪小学校区説明会での質疑応答、意見等要旨（令和5年4月15日）

| | 計画について | 回答 |
|---|---|---|
| 1 | 市が鼓阪小学校の統廃合について地域に話をしたのは、公式非公式を問わず、いつ頃のことなのか。 | 学校規模適正化については、平成28年度に中学校区別実施計画後期計画を策定し、検討を進めてきた。令和2年度にも連合会に教育委員会の考えをお伝えしたが、具体的に話をさせていただいたのは昨年の7月である。 |
| 2 | 統廃合は決定なのか。 | 佐保小学校の建て替えに関する設計予算について、議会で承認を得ている。子どもの数が今後さらに減っていくという状況は明らかであり、集団活動の中でこそ得られる力を身につけられるよう、環境を整えたい。1年、2年ですぐに統合ができるわけではないので、今から着手して進めていきたい。 |
| 3 | 中学校区別実施計画後期計画では、若草中学校を小中一貫校とすると書かれているのに、なぜ佐保小学校ということになっているのか、説明してほしい。 | 平成28年度に策定した後期計画では、若草中学校区全体の教育環境をかんがみ小中一貫教育を軸とした統合再編を検討すると位置付けている。若草中学校の敷地内での施設一体型の小中一貫教育に加え、小学校・中学校が分離した形で小中一貫教育も含めて検討することを意図したものである。 |
| 4 | 若草中学校は危険で狭いということだが、後期計画策定時点でそのことは分かっていたはずではないのか。 | 若草中学校の地盤について、校舎の北側が正式に土砂災害警戒区域に指定されたのは令和2年度であり、後期計画策定時点よりも後のことである。現在、市長部局から県の担当課に対策を依頼している。 |
| 5 | 地域から根強い反対もあり、学校の保護者も反対が9割を超えていると聞かすが、反対の意見をどのように具体的に反映していくのか。 | 学校の子どもの数が減少していくことは、学校に通う子どもたちにとって大きなデメリットである。基本的な考えについて丁寧に説明させていただき、納得いただけるよう進めていく。統合再編してよかったと思ってもらえる学校になるよう、様々な意見を汲み取り、新しい学校を作っていきたい。 |
| 6 | 反対意見について、反映する気はないのか。 | 統合再編という方向で進めていきたい。説明会は、新しい学校をどのような学校にしていきたいと考えているかご理解いただくために開いている。 |
| 7 | 今年度の学校規模適正化説明会は、どれくらいのペースで何回くらい開催する予定か。 | 現時点では未定であるが、開催予定が決定し次第、本ホームページや自治会の閲覧で周知させていただく。 |

| | 通学について | 回答 |
|---|---|--|
| 1 | 鼓阪小学校の子どもたちを佐保小学校まで通学させることは非常に危険であり、よりよい教育環境となるのかは大いに疑問である。 | 通学路については、保護者・地域住民の皆さまと適切な経路を検討し、安全対策を進めていきたい。 |
| 2 | 飯守町の子どもたちは、いったんバスで近鉄奈良駅まで行き、乗り換えをして近鉄奈良駅から佐保小学校に通うことになる。近鉄奈良駅まで資料には12分と記載されているが、交通渋滞等もあり、実際はもっと時間がかかる。近鉄奈良駅での乗り換え時も横断歩道を3回渡らなければならない、危険である。佐保小学校に到着するまでの安全面をどのように考えているのか。 | 12分というのは奈良交通が公表している所要時間である。雨の日や観光シーズンなどにこれ以上の時間がかかることは認識しているが、近鉄奈良駅を8時10分に出発するバスに乗れば学校には間に合う。 |
| 3 | ラッシュアワー等の時間帯も考慮した現実的な数字で資料を出していただきたい。 | 調査し、現状を確認させていただく。 |
| 4 | スクールバスを走らせないのはなぜなのか。 | スクールバスの運行については、地域の路線バス等の公共交通機関の運行状況や、遠距離通学をする児童生徒の人数も踏まえ、総合的に判断することが必要であると考えている。鼓阪地域については路線バスを利用していただき、遠距離助成制度を活用していただきたい。佐保以外の地域においても、路線バスが走っている学校については、路線バスを利用していただいている。 |
| 5 | 路線バスでの通学は難しいと考えるが、なぜスクールバスを走らせないのか。 | 青山や般若寺からは7時台であれば10分おきにバスが運行されており、通学できると考えている。近鉄奈良駅での乗り換えにおける安全性の確保については、検討させていただく。 |
| 6 | 通学時間については、実際にバスに乗車した上で回答してほしい。 | 実際にバスに乗車して現状を確認する。 |
| 7 | 保護者や住民から上がっている危険箇所について、1箇所ずつの対策を具体的に示してもらえる説明会はあるのか。 | 保護者・地域住民の皆さまと学校や警察署、道路管理者などの関係者間で合同点検を行い、通学路の安全対策を講じていく。 |
| 8 | 保護者から度々スクールバスの要望が出ているが、路線バスを利用という返答のみで、通学路や熱中症の心配への回答が具体的に示されていない。帽子や水分補給によって対応するためには、子どもたちの持ち物が増え、30分以上の通学では現実的ではない。 | 熱中症対策については、暑さ指数に応じて水分補給や休憩の取り方など学校において指導しており、今後も状況に応じた指導を行いたい。また、通学路については、保護者・地域住民の皆さまと適切な経路を検討し、安全対策を進めていきたい。 |
| 9 | 渋滞時、飯守町を7時42分に出発する路線バスは8時半ギリギリに鼓阪小学校に着く。バスが1時間に一本しかないのに、佐保小学校に8時半に着くには6時58分発のバスに乗らないといけない。 | 奈良交通が公表している飯守町から近鉄奈良駅までの所要時間は12分である。雨の日や観光シーズンなどにこれ以上の時間がかかることは認識しているが、近鉄奈良駅を8時10分に出発するバスに乗れば学校には間に合うと考えている。ただし、混雑時の状況も考慮する必要があるため、バスに実際に乗車して現状を確認したい。 |

| | その他 | 回答 |
|----|---|---|
| 1 | 今年度、設計費用として予算化しているが、設計に4億1,500万円もかかるのか。工事費も含まれているのではないのか。 | 実施設計は2億数千円だが、発掘調査に1億5,000万円程度かかる。発掘が広範囲に及ぶので、費用が高くなっている。 |
| 2 | 校舎の建て替えの総工事費はどれくらいになるのか。 | 実施設計を行い、積算をしないと確定できないが、30億円を超えると考えている。 |
| 3 | 後期計画を策定してから7年間の間に、地域住民を増やす具体的な取組はしてきたのか。また、10年後、20年後に小学校がなくなったこの地域をどのように活性化しようとしているのか。 | 少子高齢化は鼓阪だけではなく、奈良市全体の問題でもある。奈良市として子育て支援など全庁的な取組は実施しているが、鼓阪だけに特化した取組は困難である。一方で、跡地活用については現時点で具体的な計画はないが、今後、いずれかのタイミングで関係部署とともに協議させていただきたい。 |
| 4 | 説明会に3回参加しているが、内容がほぼ同じである。限られた時間を効率的に使ってほしい。 | 説明に関しては、初めて参加される方もおられるので、重複している部分もある。今後は、効率的な時間の使い方になるよう、説明の内容を検討する。 |
| 5 | 鼓阪北小学校には「HOP青山」があるから、そこに通う子どもたちには大人気で教育を受けるメリットを享受させないということなのか。鼓阪北小学校の子どもたちが少人数のまま教育を受けたいと聞けないのはおかしいことではないか。 | 鼓阪北小学校の子どもたちにとっても、HOP青山に通う多様な子どもたちと接することは、教育面で効果がある。学校の隣接地に不登校児童生徒を支援する施設を持ち、運営している先行事例等も検討した結果、鼓阪北小学校と「HOP青山」との一体した学習を進めていこうと考えている。 |
| 6 | 保護者対象の前回の説明会ではオンライン配信を行ったのに、今回はオンライン配信を行わなかった理由は何か。 | 前回はご要望がありオンライン配信を行ったが、肖像権の問題で画面への映り込みに反対する方もおられ、映像は流せなかった。今回のように参加人数が多くなると、音声の配信に反対する方も出てくると考えられる。また、今回の説明会では対象が不特定多数であり、鼓阪地区に住んでいる方かどうかの確認が困難である。オンラインで配信した映像等がインターネット（SNS）上で流出するリスクを鑑みて、オンライン配信は行わなかった。 |
| 7 | 鼓阪小学校の土地の所有者は奈良市なのか。 | 鼓阪小学校の底地の2～3割は国から借り入れている。なお、幼稚園は市の土地である。 |
| 8 | 早く土地を明け渡すように言われているのか。 | そのようなことは全くない。 |
| 9 | 鼓阪小学校は子どもの数が少ないのがデメリットであると思うが、メリットをそれ以上のものにするためにはどうしたらよいか考えてもらいたい。 | 鼓阪小学校の子ども数が今後さらに減っていくことは明らかである。集団活動の中でこそ得られる力を身につけられるよう、環境を整えるため、統合再編を進めたい。 |
| 10 | 奈良市には「こどもにやさしいまちづくり条例」があり「子どもの意見表明や参加がまちづくりにとって大切なものである」のだから、子どもたちの声も聞いてほしい。子ども達は地域との結びつきを大切に、まちたんけん授業や北山十八間戸掃除、東大寺奉納などを通じて鼓阪の文化歴史を学んでいる。鼓阪小学校を誇りに思っている子どもたちを無視するのではなく、鼓阪小で学ぶことの価値を十分に認めた上で、統廃合により子ども達が得るものと失うものをきちんと伝えるべきである。その上で、住民は、子どもは、行政は、どうしたいのかを話し合える参加型フォーラムを開催していただきたい。仮に今の計画とは違う結論が出て柔軟に対応してほしい。 | 今後は、鼓阪・佐保両地域の保護者・地域住民・学校関係者等の代表者からなる協議会を立ち上げていただき、協議を進めていきたい。佐保小学校校舎建設に伴う建築設計を進める中でワークショップを開催し、子どもたちの声を反映させる等、皆さまの声を取り入れていきたい。 |